

◎昭和 40 年度第 2 理事会 (40.7.

25) 出席者：岡部会長，大石，山内副会長，羽田専務理事，青木，伊藤，板倉，宇野，内林，春日屋，久保，近藤，佐藤，多谷，鏡，友田，成岡，松尾，耳野，森垣，八木の各理事，井関，武内両監事。議事録署名理事の決定：岡部会長，羽田専務理事，伊藤理事。A. 報告事項：羽田専務理事よりつぎの各項について報告がありました。1) 会計報告。2) 刊行物頒布報告。3) 各種委員会報告。4) 第 10 回海岸工学国際会議準状況中間報告。5) 会員の入退会について。B. 協議事項：1) 各種講習会開催について；①夏期講習会，②耐震設計講習会。2) 土木学会表彰規程について。3) 土木学会規則の一部改正について。4) 支部幹事長会議について。5) 委員の委嘱について

①わかり易い土木講座(仮称)編集委員会(新設) 委員長 福田 武雄 東京大学名誉教授 副委員長 後藤 正司 早稲田大学教授 幹事 春日屋伸昌 中央大学教授 嶋 祐之 東京大学教授 能城 正治 都島工高教諭 橋本 清 向の丘工高教諭 佐藤 吉彦 国鉄鉄道技術研究所 原田 静男 田無工高教諭

◎高校土木教育研究委員会 任期満了 後 任 委員 丹羽 健三 山之内繁夫 生野高校校長 幹事長 八十島義之助 三宅 政光 田無工高 兼任 常任 幹事 三宅 政光 畠中 弘 小石川工高

◎軟弱地盤耐震設計研究委員会(昭和 40 年度) 委員長 岡本 舜三 東京大学生産技術研究所 委員 沼田 政矩 国士館大学工学部 高橋竜太郎 中央大学理工学部 金井 清 東京大学地震研究所 最上 武雄 東京大学工学部 市原 松平 名古屋大学工学部 福岡 正巳 建設省土木研究所 白石 俊多 地下工事コンサルタントKK 兼任幹事長 大地 羊三 法政大学工学部 久保慶三郎 東京大学生産技術研究所

委員 後藤 尚男 京都大学工学部 山口 柏樹 東京工業大学土木工学科 林 聡 運輸省港湾技術研究所 齋藤 迪孝 国鉄鉄道技術研究所 高橋 寛 国鉄鉄道技術研究所 河野 通之 国鉄構造物設計事務所 尾崎 寿 国鉄施設局土木課 池原武一郎 国鉄建設局線増課 幹事 久保 浩一 運輸省港湾技術研究所 玉野 治光 首都高速道路公団工務部 大久保忠良 建設省土木研究所

小寺 重郎 八千代エンジニアリングKK 吉田 巖 建設省土木研究所 石原 研而 東京大学工学部 杉田 秀夫 日本鉄道建設公団計画部 中井 善人 国鉄施設局土木課 藤井 浩 国鉄建設局線増課 堀江 篤 国鉄施設局土木課 渋谷 祥夫 国鉄施設局土木課 室町 忠彦 国鉄鉄道技術研究所 小林 芳正 国鉄鉄道技術研究所 藤原 俊郎 国鉄鉄道技術研究所 溝口 博 国鉄幹線支社工事課 池田 康平 国鉄構造物設計事務所 池田 俊雄 国鉄構造物設計事務所 田村 浩一 国鉄構造物設計事務所 尾坂 芳夫 国鉄構造物設計事務所 宮川 房夫 国鉄構造物設計事務所

◎表彰制度審議委員会 委員長 永田 年 東京電力KK顧問

◎各種委員会

(1) 論文集編集各部委員会(40.6.10) 出席者：村上，奥村新旧委員長，ほか 44 名。議事：1) 各部会で審査中原稿の審査報告。2) 新規受付原稿の審査委員の決定。3) 新旧委員会の事務引きつぎ。4) 40 年度部会長，部会幹事の決定 委員長 村上永一

第 1 部会 第 2 部会 第 3 部会 第 4 部会 部会長 村上博智 粟津清蔵 都 淳一 池田康平 幹事 大橋昭光 堀口孝夫 石原研而 岩井彦二

(2) 第 13 回学術講演連絡委員会(40.6.15) 出席者：林委員長，ほか 12 名。1) 秋のエキスカッションについて。2) 学会誌「講座」による講習会について。3) 土木系学生会の活動について。4) 昭和 40 年年度年次学術講演会の報告，検討。5) 昭和 41 年年度年次学術講演会の基本方針。6) 委員改選について。

(3) 橋梁構造委員会第 3 回材料分科会(40.6.16) 出席者：友永委員長，ほか 9 名。1) JIS 委員会の報告。2) 板厚許容差の修正案について。3) 材質について。

(4) 本州四国基礎に関する専門部会第 12 回施工調査委員会(40.6.16) 出席者：関係者 19 名。議事：省略。

(5) 論文集編集委員会部会長会(40.6.18) 出席者：村上，奥村(前)委員長，ほか 11 名。議事：1) 各部会報告。2) 論文集第 120 号～122 号登載論文の決定。3) 40 年度の編集方針。4) 40 年度副委員長に栗津清蔵氏を決定。

(6) 昭和 40 年度第 1 回出版企画委員会(40.6.22) 出席者：森委員長，春日屋副委員長，久保幹事長，ほか 14 名。議事：1) 委員会内規について。2) 委員会の構成について。3) 昭和 39 年度出版物収支決算報告。4) 昭和 40 年度出版物予

算について。5) 昭和 40 年度出版物進捗状況について(上半期)。6) その他具体的に作業の進捗しているものについて。7) 企画にのぼっている出版物について。8) 業績賞等表彰制度の中間報告。9) 新規出版物に関するアンケートについて。10) 出版企画委員会の今後の方針について。11) その他。

(7) 表彰制度審議委員会(40.6.22) 出席者：永田委員長，ほか 10 名。議事：1) 経過報告。2) 委員長挨拶。3) 賞の種類について。4) 委員会の運営方針。

(8) 新潟震災調査委員会道路部門専門委員会打合せ(40.6.22) 出席者：関係者 2 名。議事：道路編の最終原稿とりまとめを行なった。

(9) 本州四国基礎に関する専門部会打合せ(40.6.22) 出席者：関係者 4 名。議事：省略。

(10) 海岸工学論文編集小委員会(40.6.23) 出席者：関係者 6 名。議事：Coastal Engineering in Japan, 1965 編集につき最終的に打合せた。

(11) 中堅技術者を対象とする“わかり易い土木講座”(仮称)編集幹事会(40.6.23) 出席者：後藤副委員長，春日屋幹事長，ほか 5 名。議事：工業高校(土木系)卒業後 2～3 年程度の中堅技術者を対象とした講座を出版する件につき委員会構成案等を作成し種々検討した。

(12) 高校土木教育研究委員会水理実験指導書編集専門分科会(第 1 回)(40.6.24) 出席者：三宅幹事長，ほか 9 名。議事：1) 経過報告。2) 分科会長の選出。3) 分科会の進行について。4) その他。

(13) 本州四国耐震設計小委員会第 35 回幹事会(40.6.25) 出席者：関係者 17 名。議事省略。

(14) 表彰制度審議委員会小委員会(40.6.28) 出席者：星基小委員長，ほか 4 名。議事：第 1 回委員会決議による線で土木学会賞の改正をすべく打合せを行なった。

(15) 本州四国耐震設計小委員会第 29 回幹事会(40.6.28) 出席者：関係者 11 名。議事：省略。

(16) 会誌編集本委員会(40.6.29) 出席者：樋口委員長，ほか 21 名。議事：1) 昭和 40 年度編集方針について。2) 編集委員会運営に関する覚書について。3) 今日の焦点「予算制度」について。4) 長論文の扱いかたについて。5) 原稿審査報告。6) その他。

(17) 海外連絡委員会(40.6.29) 出席者：伊藤委員長，徳善前委員長，ほか 9 名。議事：徳善前委員長挨拶の後，伊藤

新委員長挨拶: 1) 伊藤(学)幹事長内規および過去の事業を報告。2) 委員の交代。3) 英文年報について。4) 委員会の活動方針について。5) その他。

(18) 岩盤力学委員会第16回常任委員会 (40.6.29) 出席者: 畑野副委員長, ほか 21 名。議事: 1) 前回議事録の確認。2) 各分科会経過報告。3) 岩盤試験法のリストアップについて(講演)建設省飯田委員。4) 第3回岩盤力学に関するシンポジウムについて。5) その他。

(19) 第1回ダムコンクリート標準示方書改訂小委員会 (40.6.29) 出席者: 国分委員長, ほか 25 名。議事: 1) ダムコンクリート標準示方書改訂の主旨。2) 無筋コンクリート標準示方書改訂の進捗状況。3) 検討条項の説明・審議。4) 今後の運営について。

(20) 第1回PC工法委員会 (40.7.2) 出席者: 国分委員長, 樋口主査, ほか 21 名。議事: 1) 経過報告。2) 委員会の運営方針。3) Dywidag 工法について。

(21) 岩盤力学委員会第1分科会(第14回) (40.7.2) 出席者: 関係者 6 名。議事: 1) 「岩盤力学」執筆の件。2) 今後のスケジュールについて。

(22) 第2回表彰制度審議委員会 (40.7.5) 出席者: 永田委員長, ほか 12 名。議事: 第1回委員会の決議により去る6月28日に小委員会を開催し, その詳細を検討した結果を星楚小委員長より報告, 種々審議の結果さらに小委員会で具体的な検討を行なうことになった。

(23) 第1回軟弱地盤耐震設計研究委員会 (40.7.6) 出席者: 岡本委員長, ほか 27 名。議事: 1) 挨拶。2) 本委員会の目的と39年度報告書中の問題点。3) 資料の収集と文献調査。4) 設計上必要とされる記録のとり方。5) 原案作成の分担。

(24) 会誌編集小委員会 (40.7.6) 出席者: 樋口委員長, ほか 5 名。議事: 1) 原稿投稿状況報告。2) 会誌 50 巻 9 号編集の件。3) 「予算制度」(今日の焦点)打合せ。4) 12 月号特集について。

(25) 文献調査委員会 (40.7.7) 出席

者: 高橋委員長, ほか 22 名。議事: 1) 50巻9号登載抄録について。2) 解説記事について。3) 担当雑誌について。4) 外国新刊書選定の件。

(26) 土木振動学便覧編集小委員会「流体を含む系の振動」打合せ (40.7.9) 出席者: 関係者 3 名。議事: 「土木技術者のための振動学便覧」流体を含む系の振動の原稿とりまとめを行なった。

(27) 第88回耐震工学委員会 (40.7.9) 出席者: 那須委員長, 岡本副委員長, ほか 10 名。議事: 1) 前回議事録の承認。2) 男鹿沖地震による被害。3) 本州四国耐震設計小委員会について。4) 新潟震災調査委員会について。5) 軟弱地盤耐震設計研究委員会について。6) 耐震設計講習会について。7) IAEB (世界国際地震学会)について。8) 委員会の運営について。

(28) 本州四国上部構造に関する専門部会第31回幹事会 (40.7.9) 出席者: 関係者 19 名。議事: 省略。

(29) 第2回表彰制度審議委員会小委員会 (40.7.10) 出席者: 星楚小委員長, ほか 4 名。議事: 第2回委員会の決議により, さらに表彰制度につき内規の検討を行なった。

◎その他

(1) コンクリート有志懇親会 (40.7.2)

場 所: 土木図書館 5 号室
出席者: 33 名

議 事: 昭和 39 年度吉田賞, 吉田研究奨励金受賞者のお祝をかねて, コンクリート関係有志の懇親会を行なった。出席者のうち 6 名が令夫人を同伴され盛会の裡に終った。

支 部 だ よ り

◎北海道支部

(1) 第1回学生会映画会 (40.7.2, 北海道大学クラーク会館)

入場者: 600 名

映 画: 1) 羽田海底トンネル, 2) 川の上を走る高速道路, 3) 大阪環状線, 4) 横山ダム

(2) 第2回講演会 (40.7.6, 婦人会館)

演 題: 米国の都市計画と施設
道土木部都市計画課主任技師辻井幸雄(スライド併用)

映 画: 1) リバース サーキュレーション, 2) 大阪環状線, 3) 横山ダム

入場者: 50 名

(3) 41年度大会準備組織委員会(40.7.5, 開発局)

出席者: 堂垣内委員長, ほか委員候補 23 名。

(4) 第1回夏夏季見学会 (40.7.23)

参加者: 50 名

見学工事: 1) 静内発電所ダム, 2) 節婦漁港離岸堤工事ほか

(5) 建設会館入居促進委員会(事務局移転) (40.6.28, 道土木部長室)

出席者: 中村支部長, 本間幹事長, ほか 8 名。

(6) 第1回土木学会年次大会準備委員会ならびに第2回支部商議員会 (40.7.28, 日生ビル9階)

出席者: 中村支部長, ほか各商議員ならびに大会準備実行委員 50 名。議事: 大会委員の組織分掌ならびに今後の運営について。

◎関西支部

(1) 第1回商議員会 (40.6.29, 土木学会関西支部会議室) 出席者: 商議員 23 名, ほか委任状 8 名, 評議員 9 名, 松尾理事, 玉井支部長, 松尾幹事長, 幹事 10 名。

(2) 第2回幹事会 (40.6.29, 土木学会関西支部会議室) 出席者: 玉井支部長, 松尾幹事長, ほか 16 名。

(3) 第3回幹事会 (40.7.20, 土木学会関西支部会議室) 出席者: 玉井支部長, 松尾幹事長, ほか 14 名。

昭 和 40 年 度 土 木 学 会 誌 編 集 委 員

委員長 樋口 芳 朗

委員	浅谷陽治	天野礼二	茨木竜雄	上田勝基	大久保喜市	尾 仲 章	北田勇輔
	国広安彦	黒崎 護	小坂 忠	斉木三郎*	堺 幸七	佐藤尚徳	渋谷祥夫*
	高橋 裕*	立石俊一	寺尾英二	豊島 修*	中村正平	西 敏賢	前田 進
	安井英夫	横山義一	吉村 恒	米田宗弘			

地方委員 (北海道支部) (東北支部) (関東支部) (中部支部) (関西支部) (中四支部) (西部支部)

河野文弘	岩崎敏夫	番 二郎	酒井清太郎	畑中元弘	川上賢司	徳光善治
渡辺 昇	倉西 茂	渡辺 健	増田重臣	山田善一	船越 稔	沼田 淳

**編 集
後 記**

東京都の水キケンから1年、扇田彦一水道局長の詳細な報告は、会員の強い関心をひくであろう。これからも、学会誌として特に重要と思われる報告類は、必ずしもページ制限させず掲載したいと思う。

「学会誌が最近非常に面白く読み易くなった」と多くの会員の声を聞くごとに、編集委員としては有難いと同時に責任を感じず。会員のために、より好い学会誌を生み出そうと、樋口芳朗新委員長は大いに張り切って、委員会のあり方、運営に種々新機軸を打ち立てつつある。その成果がこれからの紙面にどう反映するか、会員諸氏の厳しい監視と暖かい支援をお願いする。したがって、会誌を読まれての感想や注文をドシドシお寄せ頂きたい。

もちろん、編集委員会も決して座して意見を待つのみならず、積極的に会員の声を求める努力を惜しまない積りである。さらに、現在ならびにこれからの土木界において何が重要な課題であるかを探究し、それを紙面に展開するために頑張りたい。そのひとつのあらわれは特集記事になっているが、これらを線香花火的に終らせないためにも、会員からの反響をわれわれは重視したいと考

えている。

一方、「日本の社会のなかでの土木学会」の自覚を、われわれは強調したい。学会誌はもとより会員のためであるには違いないが、その中での会話が井戸の中でいたずらに反響し合っている、自ら学会の力強い発展を推し進めることになってしまおうであろう。学会誌での発表が、学界外でもより強い影響力を与えるようになるべきであろう。土木技術の広い範囲や、現在および近い将来の建設界が日本の社会に位する場を考える時、その感はいっそう強い。

そのような観点から、学会誌は今後も広く会員外の意義ある主張や学説を積極的に紹介し、会員に考える糧を提供したいと思っている。したがって、編集委員会としては必ずしも完成された報告や論説を期待しているわけではない。会員の自由な討議の場としての学会誌を、会員諸氏に大いに利用して頂きたいと思う。とはいえ、一般営業誌とは異なり、やはり学会誌としての性格上の制約はどうしても存在する。ただその制約を固苦しいものではなく、より建設的に解釈してゆきたいというのが、編集委員の念願である。切にご理解とご協力をお願いする。

【高橋 裕・記】

会員の入退会について (昭和 40.7.1~7.31)

入 会	191 名 (正 127 学 61 特 1.D 3)
復 活	5 名 (正)
退 会	56 名 (正 35 学 20 特 1.C 1)
死 亡	2 名 (正)
転 格	8 名 正→学 5 学→正 2 特 1.C→特 1.D 1

特別会員の入退会

○入 会	昭和 40. 7. 6 特 1.D	KK三祐コンサルタント インターナショナル	名古屋市中区桶屋町 4 丁目 2 番地の 1
	" " 7. 15 "	昭和建設コンサルタント KK	東京都千代田区飯田町 2-14 宝紙業第 2 ビル
	" " 7. 15 "	社団法人 鉄道建設業協会	東京都中央区西 8 丁堀 2-16 東京建設会館 7 階
○退 会	昭和 40. 7. 13 特 1.C	桜田機械工業 KK	東京都中央区新富町 3-2 三井ビル
○転 格	昭和 40. 7. 2 特 1.C→特 1.D	KK建成社	東京都武蔵野市吉祥寺南町 2-2112

会 員 現 在 数

名 誉	正会員	学生会員	賛 助	特 級	特 1.A	特 1.B	特 1.C	特 1.D	特 2	合 計 (増)
62	17 431	3 303	30	19	15	50	203	334	49	21 496 (138)

正会員	渡辺喜三郎君	鹿島建設 KK 取締役副社長	昭和 40. 7. 15	死去	71 才
"	君島久登君	帝都高速度交通営団建設部第 1 設計課	" 40. 7. 19	モンブラン山中にて事故死	29 才

昭和 40 年 9 月 10 日印刷

印刷者 大沼正吉
口絵製版印刷者 若林孟夫
発行者 羽田 巖

定 価 250 円 (送料 15 円)

昭和 40 年 9 月 15 日発行

印刷所 株式会社 技報堂
印刷所 若林原色写真工芸社
発行所 社団法人 土木学会

振替 東京 16828 番

土木学会誌 第 50 巻 第 9 号

東京都港区赤坂溜池 5 番地
東京都港区芝金杉川口町 20 番地
東京都新宿区四谷一丁目
電話 (351) 5130 (編集直通) ・ 5138 ・ 5139 番